

みずほマーケット・トピック(2014 年 9 月 26 日)

週末版

内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが「本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は週後半に下落する展開。週初 22 日のドル/円は材料出尽くし感から 109 円を挟んでもみ合った後、NY 時間は株の軟調に伴い 108 円台後半に下落した。この流れを引き継ぎ 23 日のドル/円も当初は売り優勢の展開。欧州時間には米軍がシリアへの空爆を開始との報道にリスク回避ムードが強まり、ドル/円は週安値となる 108.25 円まで値を下げたが、NY 時間に入ると急速に買い戻され、結局、欧州時間までの下げ幅を取り戻して取引を終了。24 日、休日明けの東京市場ではリスク回避の円買いが優勢。安倍首相が「円安が地方経済に与える影響を注視したい」と発言したことも材料視され、ドル/円は欧州時間序盤にかけて 108 円台半ばまで下落した。ただその後はドラギ ECB 総裁のハト派色の強い発言が報じられるとユーロの下落に連れてドル/円も下げ渋り、NY 時間の米 8 月新築住宅販売件数が 6 年ぶりの強い結果となると一気に 109 円台まで買い戻された。25 日はロシアが経済制裁への報復として領土内にある外国資産を差し押さえる法案を議会に提出したことでリスクオフムードが広がり米株、米金利が急落。ドル/円は塩崎厚労相の「GPIF 改革は急がない」とのコメントも材料視され 108 円台半ばまで値を下げている。
- ・今週のユーロ/ドル相場は続落し、年初来安値を更新した。週初 22 日、1.2840 付近でオープンしたユーロはドルの勢いが軟化する中、1.2860 付近まで買われるも、欧米株の軟調やドラギ ECB 総裁のハト派色の強い欧州議会証言を受けて上げ幅を相殺する流れに。翌 23 日も米国のシリア空爆を嫌気したドル売りで一時的に高値の 1.2901 をつけたが、その後はドル買い戻しの流れから反落し、前日比横ばいで取引を終了した。24 日はドラギ総裁の「ユーロを守るために何でも行う」とのコメントや予想を下回る独 9 月 Ifo 景況指数を受けて欧州時間からじり安の展開。その後良好な米経済指標を受けたユーロ/ドルは 1.2774 まで値を下げた。25 日のユーロ/ドルはアジア時間に流れたドラギ総裁の「必要なら追加措置を取る」とのコメントを受けて欧州時間序盤に下落し、週安値となる 1.2696 をつけるも、その後はドル売りを受けて 1.27 円前半まで値を戻している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		9/19(Fri)	9/22(Mon)	9/23(Tue)	9/24(Wed)	9/25(Thu)
ドル/円	東京9:00	108.81	108.95	108.75	108.55	109.32
	High	109.46	109.20	108.99	109.15	109.37
	Low	108.60	108.67	108.25	108.49	108.51
	NY 17:00	109.06	108.84	108.88	109.04	108.76
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2921	1.2840	1.2850	1.2849	1.2778
	High	1.2929	1.2868	1.2901	1.2864	1.2783
	Low	1.2828	1.2816	1.2843	1.2774	1.2696
	NY 17:00	1.2830	1.2849	1.2847	1.2780	1.2751
ユーロ/円	東京9:00	140.58	139.89	139.73	139.49	139.70
	High	141.21	140.20	140.22	139.92	139.70
	Low	139.68	139.63	139.27	139.01	138.44
	NY 17:00	139.84	139.81	139.88	139.36	138.60
日経平均株価		16,321.17	16,205.90	16,205.90	16,167.45	16,374.14
TOPIX		1,331.91	1,330.88	1,330.88	1,326.18	1,346.43
NYダウ工業株30種平均		17,279.74	17,172.68	17,055.87	17,210.06	16,945.80
NASDAQ		4,579.79	4,527.69	4,508.69	4,555.22	4,466.75
日本10年債		0.56%	0.54%	0.54%	0.53%	0.53%
米国10年債		2.57%	2.56%	2.53%	2.56%	2.50%
原油価格(WTI)		91.65	90.87	91.56	92.80	92.53
金(NY)		1,215.70	1,215.15	1,223.34	1,217.06	1,221.53

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・本邦では1日(水)に日銀短観(9月調査)が公表される。市場予想は業況判断DI(現状)について大企業製造業が+10、大企業非製造業が+17と、それぞれ6月調査の+12、+19からの低下が見込まれている。駆け込み需要の反動に加えて、実質賃金の低下や悪天候の影響もあり個人消費の低迷が継続しており、現状DIの動きは冴えないだろう。外需についても円安進行にも関わらず輸出数量に目立った改善は見られていない。このような中、売り上げが落ち込む小売業や建築・不動産業のほか、製造業でも在庫が増加する輸送機械やコスト高に悩む素材業種で業況が悪化したとみられ、特に販売価格や仕入価格のDIなどから交易条件の悪化を注視したい。片や、先行きDIは大企業製造業が+12、大企業非製造業が+18と持ち直しが期待されている。株価の上昇もあり、個人消費が緩やかに回復すると思われるほか、想定される公共投資の増加も企業マインド改善に寄与しそうだ。但し、円安進行に伴いエネルギー価格を中心とするコスト高が不安視される状況にあって、全体として景況感回復は小幅に留まろう。
- ・米国では重要指標が相次いで発表となるが、3日(金)に9月雇用統計がある。市場予想は非農業部門雇用者数変化に関し、前月比+21.0万人(前回:同+14.2万人)、失業率が6.1%(前回:6.1%)となっている。前回8月分は市場予想前月比+23.0万人を大幅に下回る低調な結果に終わったが、8月は速報時に低く出やすいという季節性や一部小売業の操業停止に伴うレイオフといった特殊要因により実勢を上手く反映していなかったとの指摘がされている。労働市場のトレンドを占う上で有用な週次の失業保険統計は月次の振れを伴いながらも緩やかに水準を切り下げているほか、消費者信頼感等の関連指標も好調を維持しており、9月は前月の落ち込みの大部分を取り戻す可能性が高い。なお、今回は資産買い取りプログラムの終了が決定されるとみられる10月FOMC前最後の雇用統計となる。出口戦略のスケジュールに関して、あくまで今後のデータ次第であることが強調される中、10月に「considerable time」との表現が削除されるとの見方も根強く、9月雇用統計の結果に金融市場は素直に反応すると思われる。
- ・欧州では2日(木)にECB理事会がある。9月会合のサプライズ対応を踏まえれば、現状維持が濃厚だろう。敢えて言えば、10月から資産担保証券プログラム(ABSPP)及び第3回カバードボンド購入プログラム(CBPP3)が宣言されているため、その詳細な仕様や規模感に関して具体的な数字が示されるかどうかは気にしたい。第1回目TLTROの不調はそのままABSPPやCBPPへの皺寄せとなる可能性があり、あまりにも市場期待から乖離する場合、ユーロ買い戻しには注意したい。この他、残された最後の一手である国債を対象としたQEや財政政策との協調について踏み込んだ発言が聞かれるかどうかも重要である。いずれにせよ最近のドラギ総裁が「量」を強調する傾向にあることを踏まえれば、数字関係の情報発信は要注目である。

	本 邦	海 外
9月26日(金)	・8月全国消費者物価指数 ・9月東京都都区部消費者物価指数	・米4～6月期GDP3次速報 ・米9月ミシガン大学消費者マインド(確報)
29日(月)		・米8月個人所得/消費支出、PCEデフレーター
30日(火)	・8月失業率/有効求人倍率 ・8月全世帯家計調査 ・8月鉱工業生産	・米9月消費者信頼感指数 ・米7月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 ・ユーロ圏9月消費者物価指数
10月1日(水)	・日銀短観(9月調査) ・9月自動車販売台数	・米9月ADP雇用統計 ・米9月ISM製造業景況指数
2日(木)	・9月マネタリーベース	・ECB理事会
3日(金)		・米9月雇用統計 ・米ISM非製造業景況指数

【当面の主要行事日程(2014年9月～)】

日銀金融政策決定会合(10月6～7日、10月31日、11月18～19日)
 欧州中銀理事会(10月2日、11月6日、12月4日)
 米FOMC(10月28～29日、12月16～17日、2015年1月27～28日)
 G20財務相・中央銀行総裁会議(10月9～10日、ワシントン)
 G20首脳会議(11月15～16日、ブリスベン)

以 上

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2014年10月)

月	火	水	木	金	週末
		1 日本 日銀短観(9月調査) 日本 自動車販売台数(9月) 米国 ADP雇用統計(9月) 米国 ISM製造業景気指数(9月) 米国 建設支出(8月)	2 日本 マネタリーベース(9月) 米国 製造業新規受注(8月) ユーロ圏 ECB理事会	3 米国 貿易収支(8月) 米国 雇用統計(8月) 米国 ISM非製造業景気指数(9月)	
6 日本 景気動向指数(速報、8月) 日本 日銀金融政策決定会合(～7日) ドイツ 製造業受注(8月)	7	8 日本 国際収支(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(9月) 日本 *企業倒産件数(9月) 日本 金融経済月報 米国 消費者信用残高(8月) 米国 FOMC議事要旨	9 日本 機械受注(8月) 米国 卸売売上高(8月)	10 日本 第三次産業活動指数(8月) 日本 貸出・預金動向(9月) 日本 日銀金融政策決定会合議事録要旨 日本 *月例経済報告 米国 財政収支(9月)	
13 日本 体育の日 米国 Columbus Day	14 日本 企業物価(9月) 日本 マネーストック(9月) ユーロ圏 鉱工業生産(8月) ドイツ ZEW景況指数(10月)	15 日本 鉱工業生産(確報、8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月) 米国 小売売上高(9月) 米国 企業在庫(8月) 米国 生産者物価(9月) 米国 米地区連銀経済報告(ページブック)	16 米国 鉱工業生産(9月) 米国 フィラデルフィア連銀景気指数(10月) 米国 TICレポート(対内外証券投資、8月) ユーロ圏 消費者物価(確報、9月)	17 米国 住宅着工(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月)	
20 日本 景気動向指数(確報、8月)	21	22 日本 貿易統計(9月) 米国 消費者物価(9月)	23 米国 景気先行指数(9月)	24 米国 新築住宅販売(9月)	
27 日本 企業向けサービス価格(9月) 米国 中古住宅販売(9月) ドイツ IFO企業景況感指数(10月)	28 米国 耐久財受注(9月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(8月) 米国 消費者信頼感指数(10月) 米国 FOMC(～29日)	29 日本 鉱工業生産(速報、9月)	30 米国 GDP(3次速報、4～6月期)	31 日本 労働力調査(8月) 日本 家計調査(8月) 日本 商業販売統計(8月) 日本 東京都都区消費者物価(10月) 日本 全国消費者物価(9月) 日本 住宅着工件数(9月) 日本 日銀金融政策決定会合・展望レポート 米国 個人所得・消費(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、10月) 米国 シカゴPMI(10月) ユーロ圏 失業率(9月) ユーロ圏 消費者物価(速報、10月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー(2014年11月)

月	火	水	木	金	週末
					1
3 日本 文化の日 米国 ISM製造業景気指数(10月) 米国 建設支出(9月)	4 日本 自動車販売台数(10月) 米国 貿易収支(9月) 米国 製造業新規受注(9月)	5 日本 マネタリーベース(10月) 日本 毎月勤労統計(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(10月) 米国 ADP雇用統計(10月) ユーロ圏 小売売上高(9月)	6 日本 景気動向指数(速報、9月) 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨 米国 労働生産性(速報、7～9月期) ユーロ圏 ECB理事会 ドイツ 製造業受注(9月)	7 日本 *企業倒産件数(10月) 米国 雇用統計(10月) 米国 消費者信用残高(9月) ドイツ 鉱工業生産(9月) ドイツ 貿易収支(9月)	8
10	11 日本 国際収支(9月) 日本 貸出・預金動向(10月) 日本 景気ウォッチャー調査(10月) 日本 消費者態度指数(10月)	12 日本 第三次産業活動指数(9月) 日本 マネーストック(10月) 米国 卸売売上高・在庫(9月) ユーロ圏 鉱工業生産(9月)	13 日本 企業物価指数(10月) 日本 機械受注(9月) 日本 鉱工業生産(確報、9月) 米国 財政収支(10月) ドイツ 消費者物価指数(確報、10月)	14 米国 小売売上高(10月) 米国 企業在庫(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、11月) ユーロ圏 消費者物価指数(確報、10月) ユーロ圏 GDP(1次速報、7～9月期) ドイツ GDP(1次速報、7～9月期)	
17 日本 GDP(1次速報、7～9月期) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(11月) 米国 鉱工業生産(10月) ユーロ圏 貿易収支(9月)	18 日本 日銀金融政策決定会合(～19日) 米国 生産者物価指数(10月) 米国 TICレポート(対内外証券投資、9月) ドイツ ZEW景況指数(11月)	19 日本 景気動向指数(確報、9月) 米国 住宅着工/建設許可件数(10月) 米国 FOMC議事要旨 ユーロ圏 ユーロ圏経常収支(9月)	20 日本 貿易収支(10月) 米国 消費者物価指数(10月) 米国 中古住宅販売件数(10月) 米国 景気先行指数(10月) 米国 フィラデルフィア連銀景気指数(11月)	21	
24 米国 シカゴ連銀全米活動指数(10月) ドイツ IFO企業景況感指数(11月)	25 日本 企業向けサービス価格(10月) 日本 日銀金融政策決定会合議事録要旨 米国 FHFA住宅価格指数(9月) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格指数(9月) 米国 消費者信頼感指数(11月) 米国 GDP(2次速報、7～9月期) ドイツ GDP(2次確報、7～9月期)	26 米国 個人所得・消費支出(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、11月) 米国 新築住宅販売件数(10月) 米国 耐久財受注(10月) 米国 シカゴPMI(11月) 米国 中古住宅仮契約指数(10月)	27 ユーロ圏 マネーサプライ(10月) ドイツ 消費者物価指数(速報、11月)	28 日本 労働力調査(10月) 日本 家計調査(10月) 日本 全国消費者物価指数(10月) 日本 東京都都区部消費者物価指数(11月) 日本 商業販売統計(10月) 日本 鉱工業生産(速報、10月) 日本 新設住宅着工件数(10月) ユーロ圏 失業率(10月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、11月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年9月25日	安倍首相発言や最近の株高などについて
2014年9月24日	ドラギ総裁の欧州議会証言について～「量」の再強調～
2014年9月22日	ケアンズG20 財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年9月19日	週末版(第1回ターゲット型長期流動性供給(TLTRO))について～厳しくなる「量」の追求路線～
2014年9月18日	FOMC(9月16～17日)を終えて
2014年9月17日	ドル/円相場の水準感に係るヒント
2014年9月16日	スコットランド独立についての論点整理
2014年9月12日	週末版(必要なのは「円安前提の成長戦略」～心配しなくても円安は進む～)
2014年9月10日	官製相場となったユーロ相場への考察
2014年9月9日	円安を巡る財界要人発言を受けて～伸び悩む実質GDI～
2014年9月8日	本邦7月国際収支統計などについて
2014年9月5日	週末版(ECB理事会を終えて～官製相場の様相を呈してきたユーロ相場～)
2014年9月4日	9月レバトリの妥当性や今後の直投収益などについて
2014年9月3日	105円台を受けて～日米2年金利差からの推計値など～
2014年9月2日	再び迫る「市場のユーロ売りvs.SNBのユーロ買い」
2014年9月1日	ECB理事会プレビュー～最大の注目点は声明文？～
2014年8月29日	週末版
2014年8月27日	止まらない欧州金利の低下～財政が嫌なら介入のみ～
2014年8月26日	ドラギ総裁の「3本の矢」～驚きずくめのジャクソンホール講演～
2014年8月25日	イエレンFRB議長講演～「見たいように見る」相場～
2014年8月22日	週末版(ユーロ圏からの資金流出見られず～俗説に反するユーロ圏6月国際収支統計～)
2014年8月21日	FOMC議事要旨～「終わりの始まり」をどう考えるか～
2014年8月20日	本邦7月貿易収支などについて
2014年8月19日	最近のサービス収支動向～旅行収支は経常収支を支えるか～
2014年8月18日	ユーロショートカバーに備える地合い～3つの契機～
2014年8月15日	週末版(ユーロ圏4～6月期GDPなどを受けて～日本化議論は疑念を越え、予防的視点へ～)
2014年8月13日	本邦4～6月期GDP1次速報値などについて
2014年8月12日	「国際金融のジレンマ」がもたらす金融政策の通貨政策化
2014年8月11日	改めて認識する「放って置けば円安」シナリオ
2014年8月8日	ECB 理事会を終えて～曇り掛けるような口先介入は焦りの表れ？～
2014年8月7日	ハードデータに及び始めたロシア・ウクライナ問題
2014年8月6日	ECB理事会プレビュー～「最良の地合い」で現状維持～
2014年8月5日	BIS国際与信統計における欧州とロシアの繋がりについて
2014年8月4日	ユーロ下落時のユーロ円化説の考え方～認識は変わらず～
2014年8月1日	週末版(ユーロ圏7月消費者物価指数(HICP)などを受けて～ECBとしては「早く結果が欲しい」状況～)
2014年7月30日	ドル建て日経平均株価から滲み出る過熱感
2014年7月28日	ターゲット型LTRO(TLTRO)の展望とユーロ相場について
2014年7月25日	週末版
2014年7月24日	本邦6月貿易収支について
2014年7月23日	米消費者物価指数(CPI)を受けて考える為替相場
2014年7月22日	格差が出始めたユーロ圏住宅価格～BIS年次報告に絡めて～
2014年7月18日	週末版(「事後的なイベント」は押し目の好機～狭いレンジでの処世術～)
2014年7月17日	『展望レポート』中間評価などについて
2014年7月15日	円相場は損益分岐点か？～『さくらレポート』などを受けて～
2014年7月14日	FRB、「今の利上げ」は「将来の利下げ」のため？
2014年7月11日	週末版(ポルトガルの銀行不安を受けて～金融不安は日本化懸念のダメ押し～)
2014年7月10日	巨額和解金騒動から派生する決済通貨の多様化論
2014年7月8日	国際収支や対内外対外証券投資などから得られる需給イメージ
2014年7月7日	「生活意識に関するアンケート調査」に見る日本経済の現状
2014年7月4日	週末版(ECB理事会を終えて～市場期待に苛立つドラギ総裁は日銀を思い返すべき～)
2014年7月2日	フィリップス曲線にみるユーロ圏の構造変化
2014年7月1日	ECB理事会プレビュー～QEを広めかしつつ現状維持～
2014年6月27日	週末版(「動かない相場」は企業の想定通り？～プラザ合意以降で最小の月間レンジに～)
2014年6月26日	14年前半の終わりを前に～史上最小レンジが視野に～
2014年6月24日	強まった「デフレの足音」～ユーロ圏労働コストなどについて～
2014年6月23日	ユーロ圏貿易収支などについて～縮小均衡？～
2014年6月20日	週末版(実質金利からみる最近の為替相場～ユーロに買い安心感、円に売り安心感～)
2014年6月19日	FOMCを終えて～アップサイドリスクを考える時？～
2014年6月18日	ユーロシステムの流動性と欧米中銀のバランスシート比較
2014年6月17日	成長戦略素案について～雇用規制はあらゆる問題の遠因～
2014年6月16日	麻生財務相発言と「蓄積する現預金」について
2014年6月13日	週末版(オバマ米大統領の空爆シロカから思索する為替相場への影響)
2014年6月12日	今の日本は本当に人手不足か？
2014年6月11日	第二次ユーロフォリア？
2014年6月10日	進行するユーロ圏の日本化現象～金利・為替の現状から～
2014年6月9日	ECBにまつわる3つの「分かれ難さ」
2014年6月6日	週末版(ECB理事会を終えて～「百害あって一利なし」のマイナス金利導入～)
2014年6月4日	ユーロ圏5月消費者物価指数(HICP)などについて
2014年6月2日	ECB理事会プレビュー～プラスアルファの読み方～
2014年5月30日	週末版
2014年5月28日	2013年末対外資産・負債残高～過去最大の対外純資産に～
2014年5月27日	「5・23」ショックから1年で思うこと～「魅せる」政策は限界に～
2014年5月26日	労働時間規制について～「第三の矢」の担う雇用規制改革～
2014年5月23日	週末版(過去最大の中期債取得とユーロ債動向～順調に織り込まれるECBへの期待～)
2014年5月22日	日銀金融政策決定会合～緩和は「やるも地獄、やらぬも地獄」か～
2014年5月21日	IMF、対ドイツ第4条協議について～財政出動はもはや義務～
2014年5月20日	出生率目標設定も雇用規制緩和に通ず
2014年5月19日	ドルはどうして上がらないのか？～需給面からの解説～
2014年5月16日	週末版(ユーロ圏1～3月期GDPについて～6月緩和は既定路線に～)
2014年5月15日	欧州議会選挙プレビュー～「真の危機」はブリュッセルにあらず～
2014年5月13日	米金利低下の背景～むしろ間違っているのは米株か？～
2014年5月12日	13年度国際収支統計～強まる「成熟した債権国」の傾向～
2014年5月9日	週末版(ECB理事会を終えて～賽は投げられた。始まる為替市場との心理戦～)
2014年5月8日	イエレンFRB議長議会証言について～利上げ観測の牽制～
2014年5月7日	ECB理事会プレビュー～無駄打ちを避け現状維持～
2014年5月2日	週末版(下振れるユーロ圏のインフレ期待などについて～マイナス圏へ沈むイタリア、スペイン～)
2014年5月1日	日銀金融政策決定会合や「展望レポート」を受けて
2014年4月25日	週末版(南欧債の金利低下をもたらす3つの要因～国債管理体制に組み込まれるユーロシステム～)
2014年4月23日	オーストラリア経済や豪ドル相場は持続可能なのか？
2014年4月21日	円キャリー取引を巡る環境について
2014年4月18日	週末版(日米欧の物価比較～PPIではもうデフレ。鮮明になってきたユーロ圏の劣後～)
2014年4月17日	完全雇用の背後にあるもの～賃上げ犠牲の果てに～